# 第５章　各分類の取組

前章のアクションプランの取組を、地勢、アクセスルート、エリアの分類ごとに取りまとめる。

## １）地勢別

本市の地勢を活かした全体計画として、海岸部、丘陵部、田園部、山間部に分け、それぞれが持つグリーンインフラ機能を最大限活かすとともに、課題に対応した取組を行う。

【分類図：地勢別】

| 基本方針 | エリア | 取組 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 基盤 | 海岸部 | 5-2-①<br>海岸部における動植物の多様性の保全と活用 | 沿岸部の植生や片野鴨池・鹿島の森等の自然環境を保全するとともに、海岸沿いのサイクリングロード等の利用を促進する。 |
| 基盤 | 丘陵部 | 5-1-①<br>丘陵部の溜池や雑木林をグリーンインフラとして保全・活用 | 水と緑豊かな暮らしやすい住環境を保全するため、雑木林や溜池をグリーンインフラとして保全、活用する。 |
| 基盤 | 田園部 | 5-2-②<br>耕作放棄地をビオトープ化し環境教育のフィールドとして活用 | 生物多様性の再生と子どもの環境教育を目的とし、市内に増えつつある耕作放棄地をビオトープとして活用する。 |
| 基盤 | 山間部 | 5-1-②<br>緑のダムづくり | 水源涵養機能を促進させ、緑のダムになるような水源林をつくる。 |
| 基盤 | 山間部 | 5-2-③<br>広葉樹の森の再生 | 山間部における生物多様性の再生等の課題の改善に向けて、これまで植林されてきた荒廃林を広葉樹林に更新する。 |
| 場所 | 全域 | 3-2-①<br>次世代交通サービスと連携したツーリズム | MaaS 等の次世代交通サービスと連携したモビリティ（自動車、自転車等）を使い地域の自然を巡って楽しめるツーリズムを推進する。 |
| 場所 | 山間部<br>田園部 | 3-2-②<br>農林業体験や援農を楽しむツーリズム | 加賀市の景観を構成する農林業への体験を通して、地域ならではの自然の営みに触れる観光体験を推進する。 |
| 場所 | 山間部 | 3-2-③<br>森林浴を楽しむツーリズム | 加賀市の森林資源を活かし、森の中を散策しさまざまな動植物に触れ合うツアーの実施。 |

## ２）アクセスルート別

本市への車によるアクセスの玄関口である IC や主要幹線道路における水と緑の景観整備を行うとともに、各地域における水と緑の拠点や活動をつなげたガーデンツーリズムを推進する。

【分類図：アクセスルート別】

| 基本方針 | エリア | 取組 | 内容 |
|---|---|---|---|
| 場所 | 国道８号 | 3-1-①<br>四季を感じる緑空間づくり | 四季を感じながら通行できる緑の空間をつくる。 |
| 場所 | 国道８号 | 3-1-②<br>市民・沿道事業者による緑の創出スペースの提供 | 道路沿いの事業者や市民団体と連携し、植栽帯の管理を行う。 |
| 景観 | 国道８号<br>主要幹線道路 | 4-1-①<br>田園風景や白山への眺望を活かす沿道景観の修景 | 道路からの美しい風景を活かすため、沿道の修景を行う。 |
| 景観 | 国道８号<br>主要幹線道路 | 4-1-②<br>移動する視点場から楽しめる風景づくり | 自動車等で移動の際に変化を楽しむことができる風景をつくる。 |
| 景観 | 主要幹線道路 | 4-1-③<br>インター出入り口周辺の修景 | インター出入り口周辺における屋外広告物の誘導や植栽等を行う。 |
| 景観 | 主要幹線道路 | 4-2-①<br>片山津 IC から片山津温泉街を結ぶ幹線道路（ウェルカムロード）の景観づくり | 来訪者へのおもてなしとして、柴山潟や白山眺望や桜並木等を自動車等から楽しめる景観づくりを行う。 |
| 基盤 | 主要幹線道路 | 5-2-④<br>自然植生をベースとする沿道植栽の更新 | 沿道の植栽を地域環境に合った管理の容易な植栽に更新し、生物多様性に配慮した沿道景観をつくる。 |

## ３）地域拠点（エリア）別

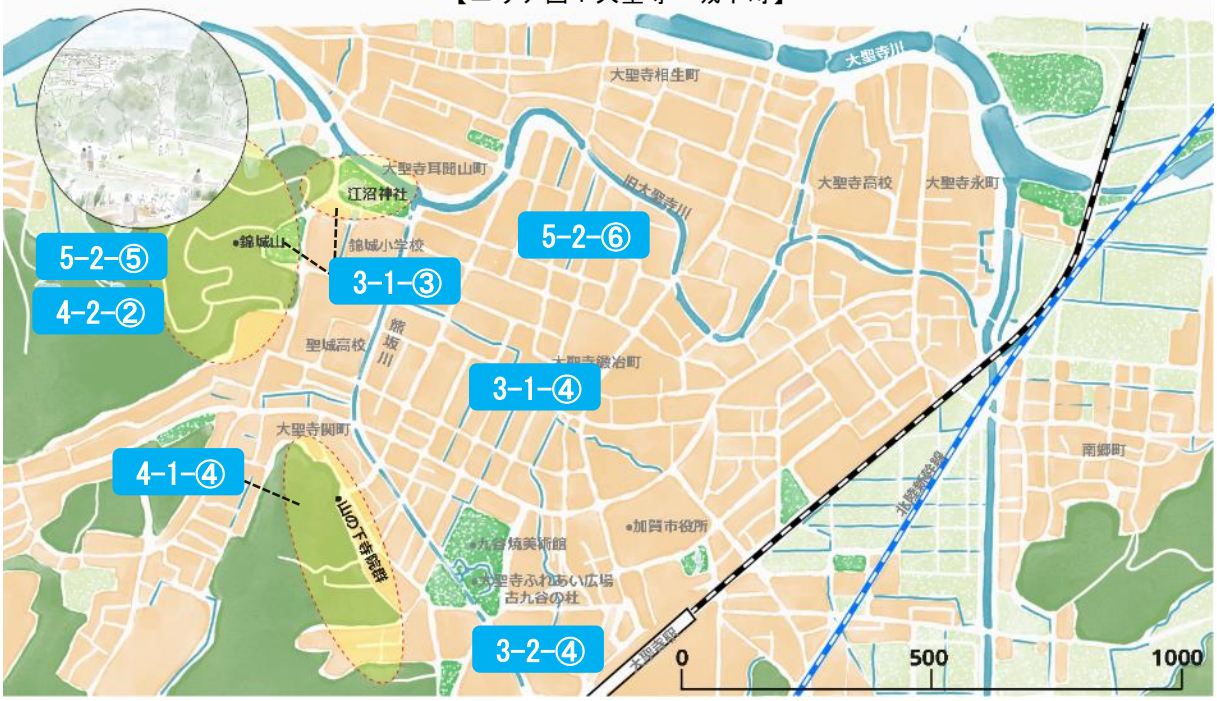
各地域の特性を活かした水と緑が集まる範囲を地域拠点（エリア）とし、エリア別にアクションプランの取組を示す。

【分類図：地域拠点（エリア）別】

## ３）－１　大聖寺・城下町エリア

歴史ある地域の山として親しまれてきた錦城山の緑や城下町の文化的景観を活かした整備や活動を行うほか、旧大聖寺川における水辺空間の保全・再生を行う。

【エリア図：大聖寺・城下町】

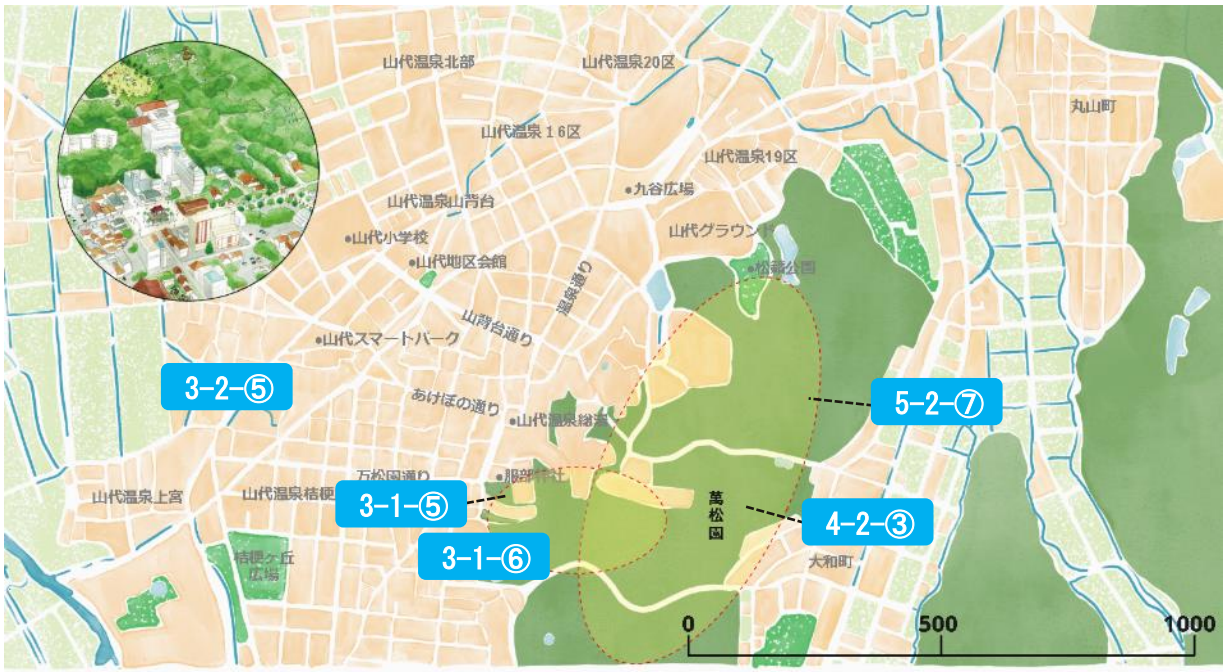



| 基本方針 | 取組 | 内容 |
|---|---|---|
| 場所 | 3-1-③<br>錦城山の環境整備と江沼神社の庭園整備 | 錦城山および江沼神社庭園の整備のほか、周辺環境の保全を行う。 |
| 場所 | 3-1-④<br>まちなかのポケットパーク整備 | 使われなくなった空き地をポケットパークとして整備し活用する。 |
| 場所 | 3-2-④<br>まちなかの自然資源を周遊するモビリティとの連携 | 大聖寺駅から錦城山や江沼神社、旧大聖寺川の水辺などをめぐる周遊ルートをつくり、様々なモビリティと連携する。 |
| 景観 | 4-1-④<br>山の下寺院群と背後林の歴史的文化景観の保全 | 寺院群の歴史的文化景観を構成する背後林を保全する。 |
| 景観 | 4-2-②<br>大聖寺の城下町の街並みや白山等を望む視点場づくり | 錦城山から大聖寺の歴史的景観や白山等への眺望のための視点場をつくる。 |
| 基盤 | 5-2-⑤<br>錦城山における多様な自然植生と生態系の保全 | 錦城山の多様な植生と生態系に配慮した保全活動を継続的に行う。 |
| 基盤 | 5-2-⑥<br>旧大聖寺川や熊坂川、まちなか小水路等の水辺環境の保全と再生 | 多自然護岸化等を行うことで、水辺環境の保全と再生を行う。 |

## ３）－２　山代温泉・萬松園エリア

山代温泉にとって最も身近な緑である萬松園エリアの里山の再生を行なっていくことで、温泉街における水と緑の活用に関する地域文化を育む。

【エリア図：山代温泉・萬松園】

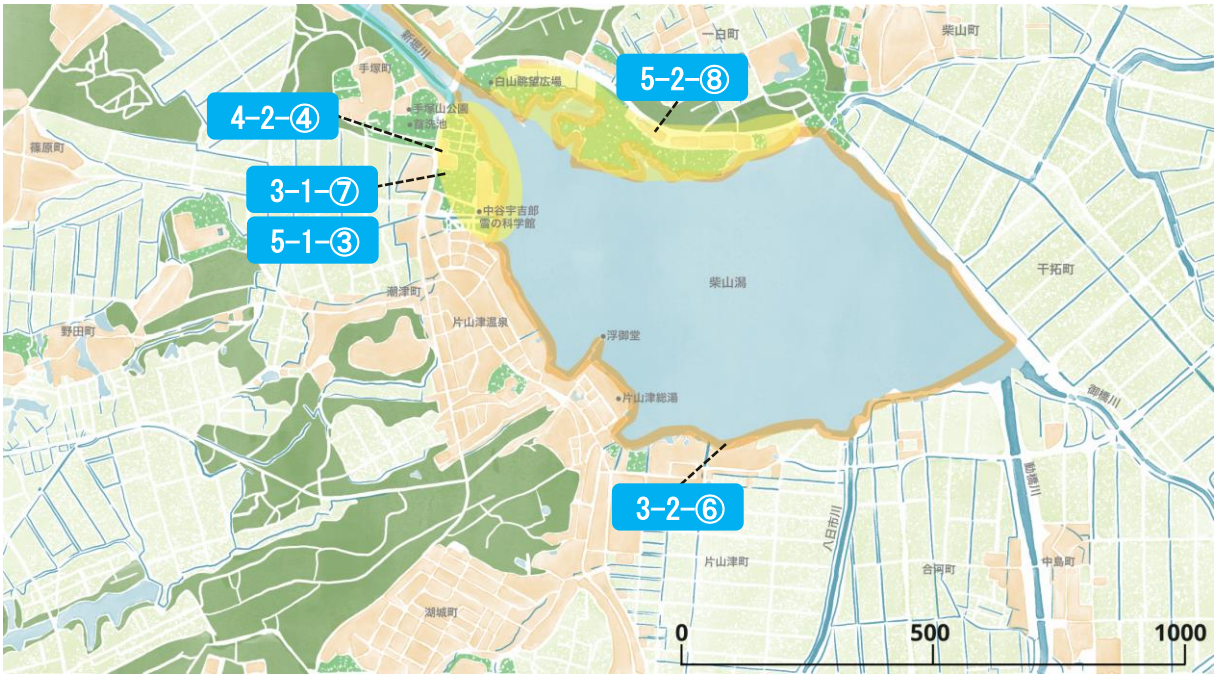



| 基本方針 | 取組 | 内容 |
|---|---|---|
| 場所 | 3-1-⑤<br>（仮称）萬松園公園の整備 | 自然資源を活かした環境教育や生涯学習の場としての利用のほか、観光振興や交流を促進する公園の整備を行う。 |
| 場所 | 3-1-⑥<br>萬松園の森の再生に向けた拠点づくり | 公園整備に合わせ、学校や教育支援団体等と協働により、森の再生を継続的に行うための活動拠点となる場や里山保全について学び、遊べる場をつくる。 |
| 場所 | 3-2-⑤<br>温泉街と（仮称）萬松園公園の周遊の確立 | 萬松園の自然資源や景観を活かした周遊ルートの検討・実証実験・体験プログラム等を行いながら、ツーリズムを確立させ、温泉街との連携と周遊性を高める。 |
| 景観 | 4-2-③<br>白山等の眺望確保のための視点場づくり | 萬松園から加賀三山や白山、柴山潟等の眺望を確保するための間伐等を行い、視点場づくりを行う。 |
| 基盤 | 5-2-⑦<br>アカマツをはじめとする萬松園の潜在植生の再生 | 萬松園における代表的な植生のひとつであるアカマツ等の再生や活用を行う。<br><br>潜在植生：アカマツ・タブノキ・スダジイ |

## ３）－３　片山津温泉・柴山潟エリア

水と緑の基盤となる柴山潟における湿性植物等の再生を図るとともに、魅力的な視点場や親水空間の整備を行う。

【エリア図：片山津温泉・柴山潟】

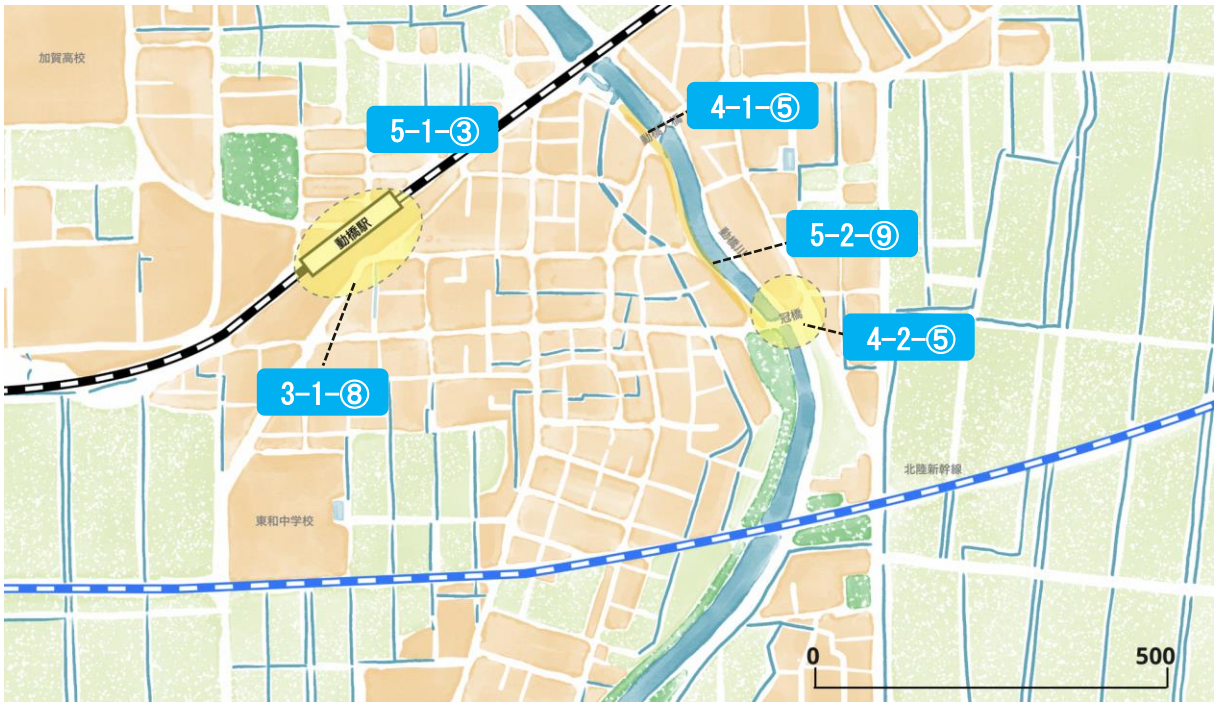



| 基本方針 | 取組 | 内容 |
|---|---|---|
| 場所 | 3-1-⑦<br>柴山潟を活かした親水空間の整備 | 柴山潟の景観に配慮した水辺空間を整備することで、柴山潟の魅力向上を図る。 |
| 場所 | 3-2-⑥<br>柴山潟の水辺周遊の確立 | 柴山潟の自然資源の魅力を感じられる遊歩道を整備し、柴山潟を周遊できるルートをつくる。 |
| 景観 | 4-2-④<br>柴山潟と白山を望める視点場づくり | 柴山潟の水辺や白山連峰の山並みを眺望できる視点場をつくる。 |
| 基盤 | 5-2-⑧<br>湿生植物や生物の保全と再生 | 減少が危惧されている柴山潟の湿性植物の保全と再生により、野鳥等の住処を守りながら、柴山潟の生物多様性を育む。<br>確認される湿性植物：ヨシ・ツルヨシ・ウキヤガラ・マコモ・ガマ等<br>確認される野鳥：チュウヒ等 |
| 基盤 | 5-1-③<br>浸水被害を抑制するまちなかグリーンインフラの導入 | まちなかにおける緑地や公園において、雨水浸透を考えた整備を行うことで浸水被害を抑制する。 |

## ３）－４　動橋駅・動橋川エリア

動橋川の豊かな水辺環境を保全するほか、動橋の拠点となる駅前広場づくりを行い、この広場を中心に地域の文化的活動や水と緑の活動を推進する。

【エリア図：動橋駅・動橋川】

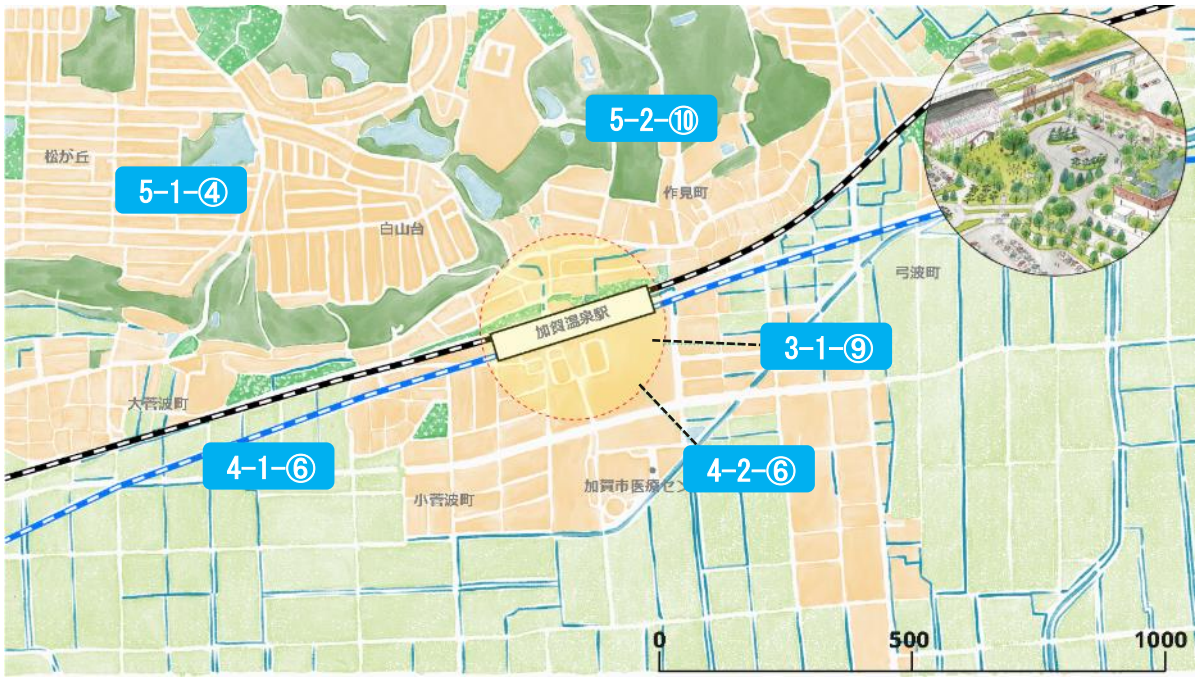



| 基本方針 | 取組 | 内容 |
|---|---|---|
| 場所 | 3-1-⑧<br>交流拠点となる水と緑を活かした動橋駅前広場づくり | 中高生の居場所や親世代の交流場所等のほか、ぐず焼き祭りをはじめ、地域行事等のまちづくり活動拠点になる、まちなかの水路を活用した緑の広場をつくる。 |
| 景観 | 4-1-⑤<br>動橋川沿いの桜並木づくり | 水辺を望む地域のシンボルとなる桜並木づくりや、植栽の更新を適切なタイミングで行う。 |
| 景観 | 4-2-⑤<br>水辺と白山を望める視点場づくり | 白山のほか、動橋川沿いの水辺や桜並木を望める視点場の整備を行う。 |
| 基盤 | 5-1-③<br>浸水被害を抑制するまちなかグリーンインフラの導入 | まちなかにおける緑地や公園において、雨水浸透を考えた整備を行うことで浸水被害を抑制する。 |
| 基盤 | 5-2-⑨<br>動橋川における生物多様性の保全 | 動橋川における多自然護岸化や水辺環境に適した植栽を行い、生物多様性の保全に取組む。 |

## ３）－５　加賀温泉駅エリア

加賀温泉郷の玄関口として、駅周辺における水と緑の景観および活動場所をつくるほか、丘陵部の雑木林や溜池等を活用した水と緑豊かな住環境を継承し、創造する。

【エリア図：加賀温泉駅】

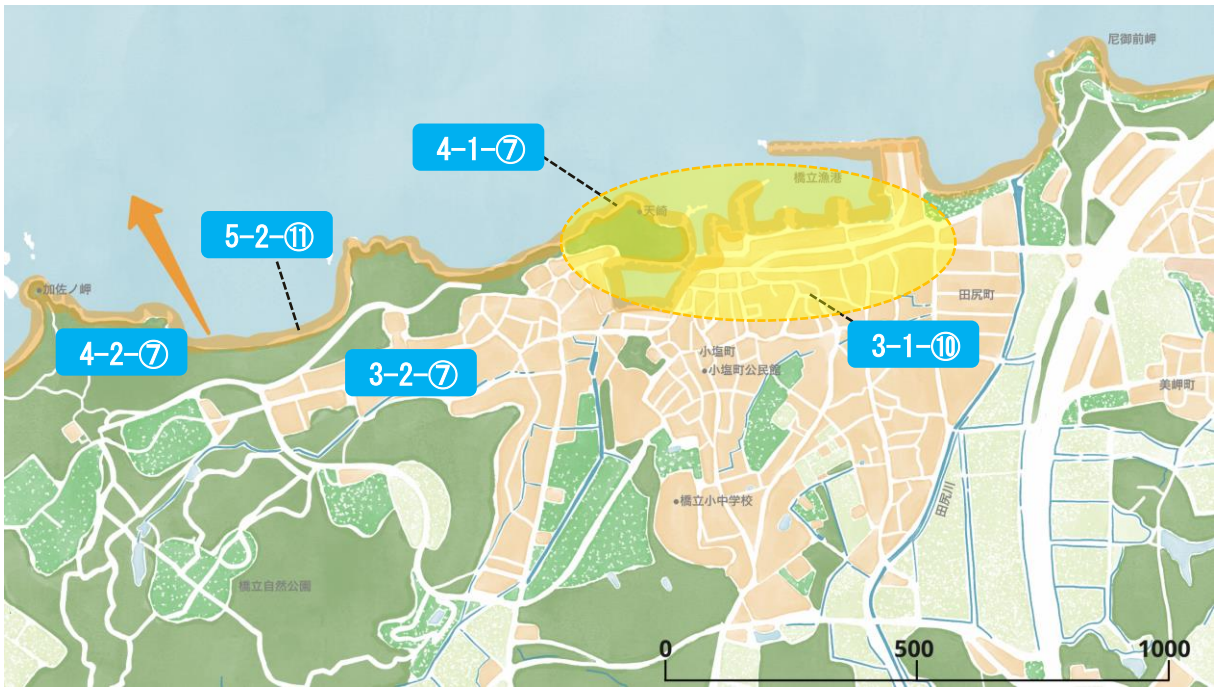



| 基本方針 | 取組 | 内容 |
|---|---|---|
| 場所 | 3-1-⑨<br>加賀温泉駅前の広場整備 | 加賀温泉駅周辺に市民や観光客が緑を感じられる、魅力的で賑わいのある広場をつくる。 |
| 景観 | 4-1-⑥<br>魅力的な田園風景の保全 | 新幹線の車窓からも四季を感じられる田園風景を保全するため、屋外広告物等の抑制を図る。 |
| 景観 | 4-2-⑥<br>加賀温泉駅周辺からの田園と白山を望む視点場づくり | 白山眺望、田園風景を活かした加賀温泉駅周辺から楽しめる視点場を整備する。 |
| 基盤 | 5-1-④<br>丘陵部の水と緑を活かしたグリーンインフラの保全と活用 | 水と緑豊かな暮らしやすい住環境を維持するため、雑木林や溜池を活用した生物多様性の保全を行い、人々の憩いの場として活用を行う。 |
| 基盤 | 5-2-⑩<br>丘陵部の二次林の保全と活用 | 丘陵部の生態系ネットワークを維持するために、二次林の保全を市民と連携して行い、二次林を活かした積極的な活用を行う。 |

## ３）－６　橋立・漁港エリア

豊かな植生や美しい景観が特色の沿岸部において緑が比較的少ない漁港内における環境改善と水と緑の活動拠点をつくる。

【エリア図：橋立・漁港】

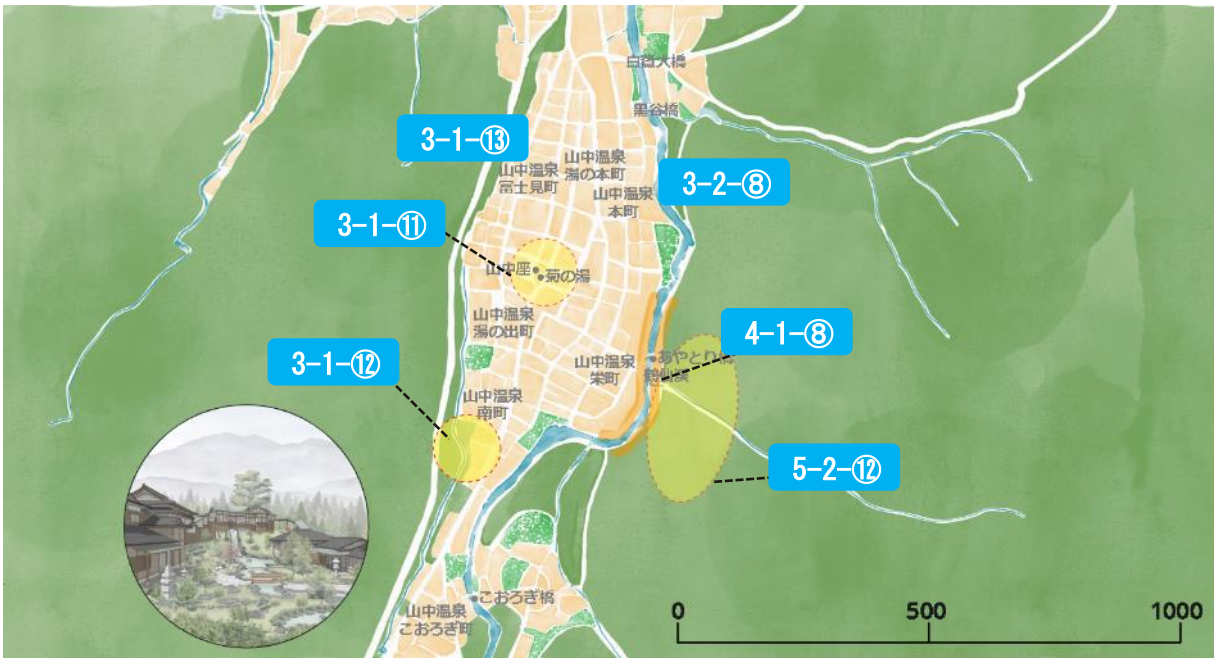



| 基本方針 | 取組 | 内容 |
|---|---|---|
| 場所 | 3-1-⑩<br>漁港周辺の自然環境に合わせた拠点づくり | 漁師町の伝統文化と漁港周辺の自然環境に調和した、水と緑の活動拠点をつくる。 |
| 場所 | 3-2-⑦<br>北前船主邸宅の開放と活用 | 現在活用されていない北前船主の邸宅を周遊ルートに位置づけ、活用する。 |
| 景観 | 4-1-⑦<br>丘陵部の自然の遊び場と漁港をつなぐ風景の継承 | 漁港や丘陵部の自然環境を活かした、橋立らしい風景を継承する。 |
| 景観 | 4-2-⑦<br>日本海を見渡し夕陽を楽しめる視点場づくり | 沿岸部の松林等の魅力的な自然景観と海を見渡せる視点場をつくる。 |
| 基盤 | 5-2-⑪<br>海浜植生と生物多様性の保全 | 沿岸部における海浜植生の繁殖地確保等を行い、生物多様性を保全する。<br>確認される植生：ハマボウフウ・ヒルムシロ |

## ３）－７　山中温泉・鶴仙渓エリア

温泉街を取り囲む山の緑の保全と活用を促進するとともに、水と緑の観光拠点の鶴仙渓における管理と修景を行う。また、温泉街中心部の菊の湯周辺において、水と緑のシンボルとなる拠点をつくる。

【エリア図：山中温泉・鶴仙渓】




| 基本方針 | 取組 | 内容 |
|---|---|---|
| 場所 | 3-1-⑪<br>温泉や周辺環境を活かした菊の湯前の広場整備 | 温泉や周辺の山々等、この地域ならではの水と緑の資源を活かした広場をつくる。 |
| 場所 | 3-1-⑫<br>旧よしのや依緑園別荘の整備と活用 | 別荘及び庭園の整備を行い、水と緑を中心とした新たな回遊拠点として活用する。 |
| 場所 | 3-1-⑬<br>まちなかにおける緑化活動の促進 | 温泉街においてハンギングバスケット飾りや多年草の花壇作りを行い、花による沿道緑化活動を促進する。 |
| 場所 | 3-2-⑧<br>山中温泉菊の湯と鶴仙渓の周遊の確立 | 菊の湯、鶴仙渓、ゆげ街道などの拠点をつないだ散策ルートを活用し、水と緑のツーリズムを推進する。 |
| 景観 | 4-1-⑧<br>鶴仙渓のサイン修景 | 鶴仙渓周辺におけるサイン等の修景を行い、景観の質を高める。 |
| 基盤 | 5-2-⑫<br>鶴仙渓の<br>背後林の適切な保全管理 | 鶴仙渓周辺の背後林における植生等を適切に保全・管理することで安全性と景観の向上を図る。<br>確認される植生：イタヤカエデ・コミネカエデ・ケヤキなど |